様式第１号（第１０条関係）

2024年度業務実績報告書

提出日　2025年1月17日

１．職名・氏名　准教授・瀧澤　文雄

２．学位　博士(獣医学)、専門分野　魚類免疫学、授与機関　日本大学、授与年月　2008年3月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 生物学実験（1単位)、2年生
②　内容・ねらい 光学顕微鏡の使い方を身につけ、単・多細胞生物の細胞の仕組みや発生を理解する。また、ウニの発生について理解する。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実験の手引きを利用して、実験の目的、注目点などを共有させた。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 魚類免疫学実験（1単位)、2年生
②　内容・ねらい 魚類の免疫活性を調べるために、免疫機能を定量的に測定する。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生が主体的に、実験の目的・意図を理解できるよう解説するとともに、班全体で協力して実験を行うよう促した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 魚類免疫学（2単位)、2,3年生
②　内容・ねらい 動物が病気から守る免疫系の仕組みについて学ぶ。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 免疫学に興味を持てるように、身近な例を取り入れつつ、分かりやすい説明を心がけた。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 分子生物学（2単位)、2年生、3コマ
②　内容・ねらい 生物の示す種々の生命現象の分子としての担い手である核酸やタンパク質の合成経路について学ぶ。 ③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義を集中して聞くようにスライドに空欄を設定した。また、生物学での内容も復習し、講義がつながっていることを意識させた。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 生物学Ⅰ（2単位)、1年生、4コマ

②　内容・ねらい
　生物が活動する仕組み、特にその原理をよく理解し、適切な用語を用いて説明することができる基礎知識を習得する。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　１年生が対象で、高校で生物基礎しか学んでいない学生も考慮し、レジュメを配布し、わかりやすい内容を心がけた。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　専門科学英語（2 単位）、3 年生、15 コマ

②　内容・ねらい
研究室に関連した英語の科学論文や書籍を読み、論文の読み方と専門用語を理解する。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　予習をさせることで、科学論文を読むことを慣習化するように工夫した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
基礎演習（１単位　毎年開講）3 年生　15 コマ

②　内容・ねらい
研究室に関連した研究内容の文献を理解し、その内容の発表・討論の方法を学ぶ。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
発表要旨を予め読むことおよび積極的な議論を促した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　専攻演習（2 単位）、4 年生、30 コマ

②　内容・ねらい
　研究室の研究内容に関連する論文を読解し、その内容について発信・議論する能力を培う。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　発表した論文の内容と自身の研究がつながるよう考えさせた。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　卒業論文（8 単位）　4 年生　240 コマ

②　内容・ねらい
　3 年次までに修得した学習成果を踏まえ、研究室のテーマに即した社会的背景や専門分野の研究課題に取り組む。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　研究の進め方や方法について、学生と頻繁にやり取りをし、論理的な考え方や課題の解決法を身につけさせるよう促した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　海洋生物培養学（2 単位）　修士課程　5 コマ

②　内容・ねらい
　魚類の増養殖技術に関わる生理学・行動学・免疫学・病理学における研究概略を講義・討論し、増養殖の現状と問題点について理解する。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　専門分野の最近の発表論文などを交えて、魚類の免疫学や病理学の最新の事例を紹介した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　海洋生物培養学専攻演習Ⅰ（2 単位）　修士課程　30 コマ

②　内容・ねらい
　海洋生物の生理学・生態学・免疫学に関わる論文を読解して紹介することにより、専門的分野の知識を高めるとともに、取りまとめやプレゼンテーションの能力を身に着ける。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　修士論文の内容に関わる論文を紹介し、個別にも論議を行うとともに、研究の方向性などについて議論した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　海洋生物培養学専攻実験Ⅰ（4 単位）　修士課程　120 コマ

②　内容・ねらい
　海洋生物の生理や免疫系に関わる実験を行い、研究の計画立案および実施並びに結果の解析・まとめ・発表する能力を養う。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　修士論文の研究について、仮説およびその検証方法について議論を行い、自ら課題を検証する能力を身に着けるよう取り組んだ。

(2)その他の教育活動

内容
①担当科目名（単位数）　開講学校名

②内容・ねらい　（自由記述）

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫　（自由記述）

④本学における業務との関連性　（自由記述）

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【0 本】

② 学術論文（査読あり）

【0 本】

③その他論文（査読なし）

実験医学　カレントトピックス・変温動物において進化した胚中心様構造・柴﨑康宏，瀧澤文雄・2024 May 24; 24(9)

Ocean Newsletter、魚類特有の抗体の役割、第 573 号（2024. 06. 20 発行）、公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所

【2 本】

④学会発表等

1. ○瀧澤文雄・末武弘章・宮澤龍一郎・徳永幸太郎・橋本敬一郎・Johannes M. Dijkstra、軟骨魚類における CD4 および LAG-3 遺伝子の同定および発現様式、令和 6 年度公益社団法人日本水産学会春季大会、東京海洋大学品川キャンパス、0515、令和 6 年（2024 年）3 月 27 日（水）～30 日（土）
2. ○瀧澤 文雄, Ehdaa E.E. Abdelsalam, 山口 卓哉, 柴﨑 康宏,宮澤龍一郎, 末武 弘章, Uwe Fischer、サケ科魚類の 2 つ CD8 遺伝子座に由来する CD8α および CD8β の発現様式、日本比較免疫学会第 35 回 学術集会、慶應義塾大学 日吉キャンパス、C5、2024 年 8 月 30 日～ 9 月 1 日
3. ○小此木 楓佳, 上野 広海, 大谷 真紀, **瀧澤 文雄**, 末武 弘章、魚類免疫関連組織における B 細胞分化の特徴、日本比較免疫学会第 35 回 学術集会、慶應義塾大学 日吉キャンパス、C6、2024 年 8 月 30 日～ 9 月 1 日
4. ○大谷真紀・**瀧澤文雄**・末武弘章・杉本剛士・井戸篤史、海面養殖ニジマスの血中リンパ球組成について、令和 6 年度公益社団法人日本水産学会秋季大会、京都大学吉田キャンパス（農学部）、4030、令和 6 年（2024 年）9 月 24 日（火）～27 日（金）
5. ○上野広海・瀧澤文雄・山本和弥・矢倉卓磨・清水友斗・大谷真紀・柴﨑康宏（日大生物資源）・宮台俊明・末武弘章、ゼブラフィッシュの IgM 陽性 B 細胞と血漿 IgM の性状解析、令和 6 年度公益社団法人日本水産学会秋季大会、京都大学吉田キャンパス（農学部）、4036、令和 6 年（2024 年）9 月 24 日（火）～27 日（金）
6. 萩原夏南・瀧澤文雄・間野伸宏・○柴崎康宏、Perforin を発現する IgT 陽性 B 細胞の機能解析、令和 6 年度公益社団法人日本水産学会秋季大会、京都大学吉田キャンパス（農学部）、4038、令和 6 年（2024 年）9 月 24 日（火）～27 日（金）
7. ○清水友斗・瀧澤文雄・末武弘章、脾臓エリプソイドの抗原捕捉細胞の由来、令和 6 年度公益社団法人日本水産学会秋季大会、京都大学吉田キャンパス（農学部）、4039、令和 6 年（2024 年）9 月 24 日（火）～27 日（金）

【7 件】

⑤その他の公表実績

【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

1. 基盤研究(B) 23H02312（研究代表者・継続）、魚類粘膜組織におけるヘルパーT 細胞による抗体産生誘導機構
2. 特別研究員奨励費 23KF0273（研究代表者・継続）、魚類ウイルス性旋回病に対する診断法およびキラーT 細胞誘導性 DNA ワクチンの開発
3. 基盤研究(B) 21H02288（研究分担者・継続）、魚類の特異的抗体産生メカニズムを探る
4. 基盤研究(B) 22H02437（研究分担者・継続）、魚類脾臓における免疫活性化機構　ー脾臓の抗

原捕捉部位はなぜ推移するのか？ー
5. 基盤研究(C) 22K05819（研究分担者・継続）、トラフグ口白症新規遺伝子産物を活用した感染機序の解明とワクチンの開発
6. 二国間交流事業共同研究 中国との共同研究（NSFC）（研究代表者・継続; JPJSBP120227410）
7. 浦上食品・食文化振興財団（研究代表者・継続、延長）、食中毒リスク軽減に寄与するアニサキス検出法の開発、始期 2022 年 10 月 ～ 終期 2025 年 9 月

【学内】
1. 戦略的課題研究推進支援事業
2. ステップアップ研究支援（個人研究推進支援）
3. 地域連携研究推進支援

(3)特許等取得

(4)学会活動等

【学会での役職】
日本比較免疫学会・広報担当
【表彰】

５．地域・社会貢献活動

⑥公開講座
福井県立大学　公開講座　「先端増養殖科学科特別講座 これからの水産増養殖を気楽に学ぶ初夏の部
第２回　７月　９日（火）　１９：３０～２０：１５
「研究紹介：魚に寄生している身近な寄生虫アニサキスを科学的に検出したい！」

⑦その他
日本学術振興会 サイエンス・ダイアログ（発表者 Ehdaa Abdelsalam の同行者）、福井県立若狭高等学校、2024 年 6 月 5 日（水）

恵那高校令和６年度 サマーサイエンスセミナー、ウニの受精実験・講師、7 月 25～26 日

６．大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

（全学）
・動物実験委員会　2020 年 4 月～現在に至る
・入試制度検討委員会　2022 年 4 月～
・ＦＤ部会（2023 年 4 月～）

（学部・学科）
・クラス副担任　2020 年度入学生
・高大連携担当　2023 年 4 月～
・臨海センター運営連絡会議　2022 年 4 月～現在に至る
・オープンキャンパス担当　2018 年 4 月～現在に至る
・学科予算担当　2023 年 4 月～

(3)学内行事への参加

・2023 年 7 月 14 日　高校入試説明会（武生高校）
・2023 年 8 月 6 日　オープンキャンパス対面型

(4)その他、自発的活動など

献血回数 51 回